

令和三年度生 入学選考試験 国語 【A O 入試】

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

このような状態に陥った青春は、ふつう、自分の内部から溢れてくる未熟で盲目的な行動への力を持てあましながらも、死を選ぶか否かということは漠然と将来に延期したまま、できることなら、生活の不安のない、そして周囲の無関心によっていわば祝福されているかのような、静寂そのものの密室にひとりぼっちで閉じ籠って、とりとめもなく、自分なりに **X** 魂を傾けた瞑想のようなものに、いつまでも耽っていたいと願うものではないだろうか？

そこに錯綜するであろう物思いの迷路のどこかで、自分を苛む疑問を解くための鍵をうまく見つけることができるかどうか、前途は茫洋として、それはまったく予測がつかないとしても、他の事柄にほとんど煩わせられることなく、ひたすら自分の憂悶と取組むことだけは、どうやらできるのである。それは、いかにも青春のひとときに相応しい、ほとんど①幸福と呼んでもいい苦行ではないだろうか？

そのときの彼の希望も、そのように頑な、しかしまた何かに甘えているような、孤独の生活よりほかの処にはなかった。彼は家庭と社会に対して、微かに自分の我儘を意識していた。しかし、**一** 余裕のある家庭に育ったためか、また、この場合の自分によく似た大学の先輩を二、三人見てきたためか、そうした②臨時の隠遁への希望が、不当な要求というほどのものになるとは思っていなかった。それどころか、学生には本来、スポーツのように楽しい鍛練であるはずの哲学的な自己幽閉を、少くとも一時期は休学してでも、経験する義務的権利があるのではないかと、彼はむしろそうした行為を、時代に対してほんの少しばかり英雄的になる道草であるかのように考えたがっていた。

そういうわけで、③旅行は、そのときの彼の気持からは、きわめて遠く疎ましい処にあった。旅行は、彼が求めている環境とは、ほとんど真反対のものであるように感じられたのである。

彼に好ましい密室において、空間とは、どんなに狭苦しいものであろうと、選び取られた自由の領土であり、位置があつて大きさがない幾何学的な点へ向かつてどこまでも縮まって行こうとするような、**二** 不在への憧れを象る瞑想の座であつた。そして、時間とは、どんなに不明瞭なものであろうとも、選び取られた純粹な持続であり、すべての時計を不要にしてどこまでも拡って行こうとするような、いわば永遠の中断への憧れを象る瞑想の軸であつた。

そうした空間と時間が絡みあう世界において、彼とお互いに束縛しあう具体的な他人はほとんど存在しないはずであつた。**三** 一方、そこに現出されるであろう沈黙を通じて、彼は千年の過去における人間、また、千年の未来における人間と、怖ろしいほど静まり返った感覚を共有することができるはずであつた。

このように望ましい環境に対して、旅行は、彼によって **四** 厭わしく意識されていただろうか？

そこでは、空間がどんなに広々と、美しく珍らしく展開されようとも、また、時間がどんなに明確に、区分され構成されていようとも、それらはひとしく、強いられた移動を証している風景や地名の変化に過ぎなかった。そこに貫かれるであろうものは、持てあました倦怠という軌跡であり、状況によってがんじがらめに捕えられた自分という惨めな意識の流れであつた。

問一 傍線部①の「幸福と呼んでもいい苦行」の実態を第一段の中の語句を用いながら五十字以内で具体的に説明しなさい。

問二 傍線部②の「臨時の隠遁」とはどんなことを指しているのか、文中から最も適切な十字以内の箇所を抜き出して答えなさい。

問三 傍線部③における「旅行」とは「彼」にとってどのようなものとしてとらえられているか、傍線部以下より三つそのまま抜き出して答えなさい。ただし末尾はいずれも体言止めにする。

問四

I

II

 の部分に次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア すなわち イ いかにも ウ どうにも エ 少しは オ もっとも カ いやでも
キ いわば ク しかし ケ だから コ どのように サ 本来 シ いずれも

問五

X

 に一語を入れて適切な慣用句を完成させなさい。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- | | | |
|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|
| ① <u>ホウビ</u> を与える | ② <u>人口トウセキ</u> を受ける | ③ <u>反対派をカイジュウ</u> する |
| ④ <u>技術</u> をモ <u>ホウ</u> する | ⑤ <u>雨不足</u> により <u>カッスイ</u> | ⑥ <u>オンショウ</u> に感涙する |
| ⑦ <u>カンサン</u> とした通り | ⑧ <u>シモン</u> 会議を開く | ⑨ <u>自著</u> を <u>キンテイ</u> する |
| ⑩ <u>悪事</u> を <u>ロケン</u> する | ⑪ <u>テイソウ</u> 観念がない | ⑫ <u>チツゼン</u> として並ぶ |
| ⑬ <u>私淑</u> する作家 | ⑭ <u>今暁</u> に出発する | ⑮ <u>公金</u> を <u>拐帯</u> する |
| ⑯ <u>凡庸</u> な作品 | ⑰ <u>醜聞</u> を暴かれる | |